

第2回 小郡市庁舎建設審議会

— 議 事 録 —

- 日時：令和8年1月29日（木）10：00～
- 場所：小郡市役所 本館3階大会議室
- 出席委員：前田真委員、鮎川透委員、森勝則委員、重松正喜委員、佐藤真紀子委員、
村橋理恵委員、片根暢宏委員、島弥生委員、守屋彩乃委員
- 欠席委員：大石たえ子委員
- 事務局：大中経営政策部長、牟田財政課新庁舎担当主幹、肥山新庁舎担当企画主査、
有富主任主事

| | |
|-----|---------------|
| 議 事 | 新庁舎の役割・機能について |
|-----|---------------|

■事務局

～資料に沿って説明～

■委員

・今、全体の資料の説明を説明いただいたが、今日の議論については、3ページ（「第2回審議会で検討する内容」）に書かれている内容を皆様からご意見を賜りながら、少し集約していきたいと考えている。

・第1回の審議会で出されたキーワード、特に窓口、DX、市民も利用できるスペース、防災、市民のふれあいの場、将来的な人口減少、人口構成、また近隣自治体、その他の事例について、委員の皆様からご意見を賜り、今日、事務局の方で準備をしていただいた次第である。その中で、5つほどポイントを絞りながら、皆様にご意見を賜りたい。

・建物は数十年経つものだと、それに向けての建物の適正化というか、規模、内容等が必要だろうということで、人口推計を出していただいた。

・また、窓口について、地政学的に小郡市は、縦に長い。わざわざ庁舎に来なくても、住民票の発行などができるようになっている。それでも庁舎にやはりこういうことがあった方がいいということについて、ご意見を賜りたい。その中で庁舎の機能が少し見えてくる。全く行かないということも現在起きているのかもしれないが、こういう機能があつたら行くというようなことがあるかと思うので、皆様からその部分、ご意見を賜りたい。

・防災拠点について。コントロールタワーとしての機能は、必須だろう。とはいえ、防災だからここに人がみんな集まるということではなくて、何が必要かというところで、防災としての拠点の機能が求められる。先ほど縦に長い小郡市というお話もさせていただいた。真ん中には宝満川もある。そういった時に、みんな庁舎に避難してくるのかということではないということ踏まえて、最低限どういうことが必要かというところで、皆様からご意見を賜

りたい。

・活動・交流について。それぞれの学校区の中で、いろんな活動拠点は、現在も機能として、小郡市としては備えていると思うが、それも踏まえて、庁舎の中にこういう機能が欲しいというようなご意見をいただきたい。

・にぎわい拠点について。特に観光立地の自治体だと、要は市民だけではなくて交流人口のために、にぎわい拠点を設けているところもたくさんある。そういうところも踏まえて、この5つの視点で皆様からご意見を賜りたい。

■委員

・まず、窓口についてだが、今コンビニなどで住民票などが発行できる便利な世の中だと思うが、窓口でしか発行できないものと、コンビニで対応できないものが何かを線引きする必要がある。

・例えば窓口に行かなくても、機械で発行できるものがあるにしても、コストや、コンビニで対応できる同じ機能であれば、そのコストも気になるし、いくら便利になっても、それを使える人間とその機能を伝える人間も必要になってくるのではないか。なので、いかに分かりやすくするのかというのが一つと、市民が集う場所に、それがそもそもできるということをまず周知する必要があると思うので、大前提として、この新庁舎には多くの方々が交流する必要があると思う。人々が集まることによって、こういう機能があるんだということをまず知って、それに興味を持ってもらって、行動を起こしてもらうことが必要だと思う。

・また、人口推計について、今後人口が1万人ほど減っていくというところで、筑後市の庁舎の事例で、今後、人口減少に備えた用途転用がしやすい構造での計画ということがあった。今後、統計の数字を見ても、人口が減っていくというのは見えているので、それに対応するための準備と、人口が減っても余剰スペースがうまく活用できて、今の若者世代等を支援できるような機能を備えたりなど、人口を呼び込むための施策に使えるようなスペースになればよい。

■委員

・市役所に何を求めるのか、シンボリックなもの、交流を求めるのか、それとも手続き的なことを中心に求めるのかについてすごく考えている。家が市役所から遠く、市役所に来ることはほとんどなく、住民票を取るのも近くのコミュニティセンターがあるので、そこで取るというような生活をしており、交流の場があって、そこで何かイベントがあった時に多分相当の魅力がないと行かないと思う。そのイベントに対して、相当の魅力があれば多分遠くても行くと思う。そこまでして、そういう場所を作る必要があるのかとも思うし、そういう場所があってこそそのイベントができるのであれば、そこでまた小郡市が発展していく一つの何か手段になっていくのもありだと思う。

・防災について、この庁舎に避難するのかということ、いざと言うときに私はできない。では

そこに何を求めるのかということ、情報を集めたり、発信してもらえたりっていうところだろうと思う。

■委員

・防災拠点について、今一番、市役所で求められている部分とは思うが、小郡市では水害もすごく多く、地震がいつ来るかわからないというこの時代で、市役所が一番、建物が潰れずにしっかり拠点として残れる建物を作らないといけないというのが第一だと思う。立地、場所の話にはなってくると思うが、小郡市の中でどこがいいのかっていうところにもなるし、小郡市の駅の近くが一番水害には強い場所と個人的には思っている。機能や役割っていうのも避難する場所というよりも、しっかり市役所が災害に遭わずに、市民の方たちにどれだけ援助ができる機能を持つのかということ、もう少し深く考えていかなければならないと思う。

・市民の活動・交流について、今、小郡市の建物は、交流する場がたくさんあると思う。また新たに市役所の場所でのぎわいの交流場所を作っていくべきなのか、それとも、例えば、文化会館とか今のあの辺が建て替えの時期だったり、メンテナンスをしないといけない時期になってくるのであれば、そこと一緒に市役所を持っていくなど、新たな場所というよりも、そういうところが複合的に一緒にできる場所ができるといいと思う。そうすれば少しコスト的にも削減できる部分もあるんじゃないかと考えている。

■委員

・にぎわい拠点、市民活動・交流については、文化会館と生涯学習センター、各コミュニティセンターにも小さい舞台などがあるので、わざわざ市役所に何かホールを作る必要性は特に思わない。文化会館もいろいろ修理とかやってみたいなので、そこら辺との兼ね合いも考えつつうまくやっていくと、よい拠点ができるのではと思う。

・窓口について、証明書発行などもすごく便利になったが、違う市で福祉関係の手続に行ったときは、やはりどうしても窓口で相談という形が絶対必要だと思うので、そういう窓口サービスと、個別でできるサービスは必ず必要だと思う。そういうスペースの方が大きくなっていくんじゃないかと思う。

・防災拠点は、何かあっても倒れない施設が必要だと思う。

■委員

・小郡市は縦に長い市である。窓口に行かなくてもコンビニで証明書とれると言うが、コンビニも店もない地域もある。今まであすてらすに取りに行けたんですけど、あすてらすもそれを取り扱うのをやめた。コンビニにも行けるが、なかなか利用できない。高齢者の方はそういうのもできないという方もいる。だから、便利性だけを考えずに、高齢化が進んでいるからこそ、地域性を考えて、高齢者などが安心してできるのをお願いしたい。

・防災に関して、地域性を考えても、市役所にもその拠点があって、それが他の地域にもちゃんと連絡がいくように、もっと皆さんを指導していただく。コミュニティセンターの職員の方たちには、防災のことは無理だと思う。市の中に防災の専門の人たちが多分いらっしゃると思うので、コミュニティに対しての心配りをよろしくお願ひしたい。皆さんで連携ができるように、市の方からやっていただきたいと思う。

・市民活動について、遠いところからなかなか行かないっていうのはよく分かる。あすてらすには、お母さんたちがこどもの健康診断を受けに行かれます。その時に、ここに遊ぶ場所があるっていうのが最近知られて、雨が降ってもどこも行くところがない場合にここへ行けばよいとなっていて、それなら中央にあればいいっていうわけではないが、いろんなところにも少しあればよいと思う。だけど、中央にあることによって、これが他の校区にもあるというのが分かるように考えていただきたい。

・立派すぎるのを建てたとしても利用しなかったら一緒だと思う。ただ、文化会館のところが生涯学習課っていうのが離れていて、あれを一緒にするのはいいと思う。図書館も古い。だけど、小郡市の図書館はとても良いと、他市から利用される方も言われているので、皆さんが行きやすい場所にしていくためには、市役所と合同にしてもらったらよいと思う。

■委員

・窓口対応の時に、バリアフリーで車椅子の方が入れるスペースの確保を検討してほしい。

・防災について、市の拠点だから、建物が壊れないということは当然だと思うが、一番必要なのは電気だと思う。停電対策は少し強化されたほうがよい。市役所は拠点なので、頑丈な建物、倒れないということとあわせて、電源を確保しておかないといけない。

・人口減なども考えられるが、市民ふれあいの場というのは、小郡は生涯学習センター、コミュニティセンターなどがあるので、それを活用するとして、庁舎では最低限のものでよく、あちこち同じものを作らなくてもよい。

・人口が1万人減るから、庁舎も職員が働きやすいような形で、書類は置かない、誰がそこに座ってもいい作りにされるだろうし、そのためにはDXの力が非常に大事だと思う。

・庁舎の中に、出先がいろいろあり、出先の職員は本庁と事務作業のために行き来していて、面倒だと思う。職員のことも考えたら、一箇所いろんな庁舎の中に機能を持たせるのがよい。また、子育ての方はあすてらすに行かなければならず、そういった行ったり来たりとかいうのが望ましくないと思う。あすてらすの業務を本庁の方にもってくれば、ワンストップの面でも、事務の流れも、市民の方たち、特に若い人たちのためにいいと思う。

・一番大事なのは防災関係で、どこの他自治体も力入れていたし、耐震性などの機能を十分果たせるような建物を設計された方がいいと思う。

■委員

・窓口について、一階市民課の窓口付近が一番混んでいる。一階のスペースを広くして、待ち時間をなくすような施設にお願いしたい。

・防災拠点について、現在もし災害があったら本部はここになると思うが、その災害対策本部の様々なスペースもいるのではと思う。

■委員

・この審議会として考えないといけないのは、市庁舎を考えるのに市庁舎だけ考えてはダメで、今出ているように、その地域活動や、市全体でどういうふうになっているか、将来どういうふうにしていこうとするのかということが重要ではないか。地域活動、市民活動、交流などが小郡市にはあると思うが、それをどういうふうにレベルアップ、使いやすくして、その中で庁舎の中、あるいは庁舎に近接して、そういうものを作るのかという分析と、やっぱり将来像を確認する必要がある。

・さらにその生涯学習などの機能までくっつけて、いろんな活動が庁舎の中でできるとか、あるいは庁舎に近接してできるというのが大きな流れとしてはあるが、それをどこまでやるのかっていうのは、長い目で見た場合に、その活用そのものの有り様とも関係してくると思う。その辺の議論は、事務局が他の部局との調整をしていただいで、その辺の見通しなり、現状である考え方を整理していただければよい。

・例えば筑後市は、駅前であって商店街の突き当たりにある。そういう意味で言うと、いわゆる拠点性とにぎわい拠点という言葉が、筑後市の場合は必要になる。小郡市ではどうかと考えた時に、その拠点性が場所によっても違う。

・駐車場をどう取るかとかという、交通拠点との関係もあるし、どういう拠点を考えるのかというのが、これは市民が何を期待するかということと絡んでくる。そういう中では、役所を作るだけではなくて、コミュニティバスとか、巡回交通機関のネットワークと、この拠点との関係とか、生活を支えるということと、市庁舎の役割と、もう少し広い話がありそうな感じもする。

・防災拠点については、庁舎までは逃げてこれないから、それぞれ地域の防災活動と、ヘッドクォーターとしてのこの役割というのを少し整理すればいいと思う。警固断層は今日日本で一番動きやすい断層と言われていて、防災というのは重要で、耐震性も大事である。

・電源の話も大事である。自家発電はつくだろうが、オイルをどうするのかという議論もある。

・人口については、非常に悲観的になる必要はなくて、他のところに比べたら労働人口はそんなに減らない。これはロケーション、小郡というまちが、流入人口が結構多いからだろう。だから、市外から流入してくれる方々に住んでもらって、教育環境と医療環境と文化環境を整え、あそこに行ったら何か楽しいことができ、安全安心に暮らせるというイメージをどうやってつくるかということで、それが市民の総意であれば、そういうことを目指して小郡

市はその都市運営をしていく。そのシンボルとして、この庁舎なりあるいは文化施設が、その先導的な役割を果たして、市民に、あるいは広く周辺市町村に宣言していけば、もっと人口が増えていくかもしれない。

■委員

・様々なご意見をいただいた。ここで全てを集約するわけではないが、この審議会では庁舎に求められる機能と規模と場所、3つの答申をしなければならない。これらは個別で議論できる問題ではなく、全てが絡み合ってくる問題だが、一気に3つを議論するのは困難であるし、小郡のまちづくりや既存施設との関係を踏まえた庁舎のあり方を検討しなければ、まとまらない話である。今回の委員は基本的に地域目線、市民目線の方々であり、観光や商売、農業などの団体の方は委員にいらっしゃらないため、そうした観点での議論はできないが、あくまでも市民目線、地域目線の中でしっかりと議論し、意見を出していきたいと思う。

・小郡市の既存施設である文化会館、生涯学習センター、図書館、各コミュニティセンターは、それぞれ市の中で課が別で管轄が別となっている。現在、全国の自治体施設が老朽化のタイミングを迎えており、高度成長期に建設された施設の長寿命化、建て替え、統廃合の議論が全国で起きている。市庁舎を建設する際に、老朽化した施設の機能を含めるかという議論は、この審議会では困難だが、行政側としてはそこまで含んで検討しなければならない。あすてらすも10年20年後には大規模修繕が必要になる。図書館、文化会館、生涯学習センターも同様で、体育館は新しくなるため問題ないが、新しいものとそうでないもののバランスを考慮する必要がある。第1回で現在の建物や市の窓口の資料が提示されたので、現存する施設は現存するという前提で議論を進めることが必要である。

・ただし、皆様からいただいた連携や既存施設の有効活用、縦に長い地形での機能などのご意見は、機能の中身を検討する際にしっかりと踏まえていく。

・周辺事例についても色々あったが、それぞれの地政学的条件や人口の流れ、まちの特性が反映されている。他自治体は他自治体の事情でそうなっているのであり、小郡は小郡の条件に見合った形で検討する必要がある。小郡は縦に長い地政学的条件があり、中央から南の川周辺はハザードマップでも災害が多い地域で、人口も増加している場所と減少している場所の濃淡が極端である。交通についても、西鉄は二日市から下、久留米から下で便数が極端に減少している。将来的な甘木鉄道の存続や軌道系交通、のるーとなどのデマンドバスの展開も、場所を考える際に重要である。

・八女市の事例では大きな駐車場があるが、八女市庁舎は車でしか来られないため必要である。ここは、公共交通やデマンドバスで来られる場所なので、駐車場はそれほど必要ないかもしれない。一方で、場所が限られて車で来る人が増えた場合、立体駐車場で台数を確保する自治体もあるが、建設費とメンテナンス費用が高くなる。

・様々な要素を考えると決められないということになるが、今日いただいたご意見を踏まえて少しずつ集約していく。今日の時点で機能面について皆様からご意見をいただき、5つの

ポイントを整理した。他の方の発言を踏まえて、さらにコメントがあればお聞かせ願いたい。

■委員

・市民活動について、各地域でできること、既存施設でできることと、それでも市庁舎にあったらよいものは何か、お考えはあるか。八女市庁舎の例では貸会議室など、役所の中で自分たちのグループで話せる場所がある。筑紫野市なども同様である。その程度でよいのか、もっと市役所の中にあった方がよいものがあるのか、いかがか。

■委員

・あすてらすはよく利用するが、会議室や多目的ホール、鏡付きのホールがあり、ダンス教室の先生や体操教室が使用している。そうした施設はあすてらすにはあるが、ここにはない。子育ての方やサークルの人たちが部屋を借りて練習や集まりに使用している。あすてらすまで行かなければならないという課題がある。中央にあるとアクセスしやすく、あすてらすは車でしか来られないが、端間から歩いて来る方もいる。そうした機能が中央にあってもよいのではないかと思います。知っている人は知っているが、知らない人は全然知らないという状況がある。広報に載っているが、情報が多すぎて埋もれてしまう。中央に拠点があれば皆さんの足が向くのではないか。

・各校区にコミュニティセンターがありますが、大イベントや雨天時には体育館を借りることもある。大きい施設に大きなフロアがあれば、地域の小運動会やバレーボール大会などにも利用できる。ただし、あまりたくさんありすぎても無駄になるため、そのバランスは専門の方に考えていただきたい。

■委員

・小さな校区ごとでコミュニティ活動が盛んに行われている。市役所本庁に持つ機能は絞ってよい。サークル活動や協議会の部会活動、防災部会の訓練、講演会、講習会などは大概コミュニティセンターで実施されている。市役所の機能は、全体を見て各校区に連絡する拠点、特に防災機能の拠点であればよい。小郡には施設がたくさんあるため、地域に開かれた市民交流の拠点としての機能はそれほど必要ないと感じている。

■委員

・事務局にお尋ねするが、防災の関係で、市庁舎に備蓄倉庫はあるか。各行政区には防災倉庫があるが、市にはあるか。

■事務局

・市庁舎自体にはない。別の倉庫に分散して備蓄品を保管し、そこから配送する形をとっている。

■委員

・市庁舎を建設する際には、他ではなく市庁舎の中に備蓄倉庫が必要ではないかと思う。

■委員

・コミュニティセンターには水や米を備蓄している。3年程度で消費期限を迎えるため入れ替えながら対応している。

■事務局

・分散備蓄を基本としているが、新庁舎建設時には一定程度をそこに置くべきというご意見として、今後検討することは可能だと思う。

■委員

・イベントスペースや交流スペースについて、相当魅力がないと市役所のイベントスペースにわざわざ来るかという懸念がある。市役所の手続きついでにくつろげるスペース程度がよいのではないか。子育ての方や高齢者がちょっと集まれるスペースがあるとありがたい。大きなイベントは、生涯学習センターや文化会館などがある。市庁舎のホールには相当な魅力がないと、遠方からは来づらと思う。車で15分20分、電車でも駅まで行って乗り換える必要があるため、相当大きな駐車場がないと厳しい。ちょっとしたイベントスペースは欲しい。

■委員

・機能的な話で、カフェの話も出たが、他の市庁舎では職員も利用できる食堂があった。小郡市は定食屋が減ってきており、市役所に栄養バランスの取れた食事ができる場所があれば魅力的である。職員の方々もコンビニではなく、栄養管理された食事が取れる職場は素敵だと思う。職員にとっても市民にとってもプラスになる機能ではないか。

■委員

・他の自治体の事例では、古い庁舎には食堂がある。小郡市になかったのは、近隣に食事場所がたくさんあったからだろう。今はどんどんなくなり、コンビニで食事をする人が増えている。古い庁舎の自治体では、使われなくなった食堂を弁当配達事業者の受け取り場所として活用し、リニューアルして様々な世代がくつろげるスペースとして使用する例がある。新庁舎では、食事まではなくても、ちょっとしたカフェ程度の機能ならありえる。運営の問題はあるが、小郡では市民活動、交流、賑わいの機能は情報発信や機能連携で十分で、大きなものは不要だろう。来庁者がちょっと寄れるスペース程度が皆様のご意見の流れである。新庁舎では、情報発信として小郡市のお土産なども置かれるだろう。

■委員

・あすてらすの食推会では、子育て支援部署ができた時から、カフェでコーヒーと手作りクッキー、おからクッキーを販売している。食に関する PR をする場所として、70 人程度のメンバーで活動している。子育て支援部署と連携し、こどもの遊具を置いて、大川の木工家具を使用している。お子さんとお母さんが健康課での 3 歳健診や 1 歳半健診の際に利用し、こどもを遊ばせたり絵本を見たりできる。夏の料理メニューを置いたりして皆さんに PR しているが、あそこは遠いのが難点である。関わる人以外にはなかなか知られていない。一つの拠点になった方がよく、経費面でも一つの拠点でもっと小規模にできればよい。

■委員

・生涯学習センターにカフェがあったが、現在はなくなっていると思う。経営が難しいのではないか。イベントがあっても飲食の需要は減っているようだ。必要だと思うが、そうした事例もあるため、本当にニーズがあるかどうか調べてほしい。

■委員

・ここ 10 年ほど、木の利活用という話が全国的に出ている。建設費はどんどん上がっているが、明治以来百数年、戦後七十数年、鉄とコンクリートで暮らしてきた日本社会の前は、ずっと木だけで暮らしてきた。現在の日本、福岡県の山も切り出しておらず、大きな木がたくさん残っている。このままでは 30 年後に木造ができなくなる状況である。木造でやるという意味ではないが、木を生かした庁舎づくりは各地で行われている。八女などでは建築基準法の制約がある中で、外壁のルーバーや床、家具などで木を使用している。小郡市には森はあまりないが、生活環境としての木のあり方は、そこで採れた木でなくてもよく、田園風景とも絡めて、木の利活用は近年の公共施設のキーワードとしてあるのではないか。

■委員

・木の話はよく出るが、材料と工事費が大幅に上がっており、九州の中央部は他地区より高騰率も高いそうだ。RC 工法か SRC 工法か、12 階建てか面積を使って 5 階建て 2 棟かで予算が大きく変わる状況である。庁舎の機能や規模を考える際に、狭い土地に上に伸ばすか、有効活用して 3 階 4 階建てでやるか、木造でやるかという議論は、この審議会では扱わないが、規模については答えなければならない。規模は延べ床面積だけでは語れず、場所との関係もある。お金のことまで考えなくてもよいとは思いますが、世の中の状況として、立派なものを作ってほしいというわけにはいかないことは意識しておいてほしい。

■委員

・高く作る庁舎と低く作る庁舎では、どちらが建設費は高くなるか。

■委員

・構造によるコストの差は、現在はSもRCもあまり変わらない。国際価格のため、日本がコントロールできない状態である。鉄はトン13万円が48万円になったこともある。木の場合は地域材があるため、運送費や加工費をコントロールすれば、まだコントロール可能である。高いのと低いのは、地盤が良いところは平屋でも杭が少なくて済むが、高くすると杭は少なくて済むが太くする必要があるというバランスである。建てる場所の地盤による。川の近くの氾濫原は大体地盤が悪い。多少高くやった方がよいが、歩く距離が長くなるという判断基準がある。

■事務局

・市民目線でご意見をいただいているが、職員採用の視点もある。新規採用職員で車を持たない若い方が多く、車で行かなければならない職場には行きたくないという声がある。民間と公務員の比較がフラットで、公務員だからという理由はほとんどなく、給料が高い、ライフバランスが良い、スキルアップができる職場を選ぶ傾向にある。採用において立地は非常に重要である。ある会社では部署を分散しようとしたら、応募者が来なくなるから人事部門が止めたという事例も聞いた。現在は公務員が公務員を取り合う時代である。ほとんどの自治体が社会人枠を設け、小郡市も来年から導入予定である。立地、待遇、福利厚生は非常に重要になっている。

・もう一点、答申をいただいた後、構想や計画を立てて着工までには一定の年数がかかる。一番心配しているのは、その間にAIがどこまで進むかである。建設時に無駄だった、オーバースペックだったと言われたいよう、100%は無理でも、できる限り想定する必要がある。

■委員

・AIというのは、どういうことを想定してのことか。

■委員

・行政DXの一環でAIを導入し、仕事の効率化を進める動きがある。行政事務から市民サービスまで、自治体のやる気次第で一気になら変わる。

■事務局

・職員が事務をするよりも、AIが市のデータを全部持って分析して回答するほうが良い場合、窓口機能というものは必要なくなるかもしれない。コミュニティセンターにどこまでの機能を持たせ、本庁ではどこまでを持つか、という考え方もある。AIやDXを使えば可能になるかもしれない。AIやDXをどこまで意識しながら新庁舎を考えるかは非常に重要である。

■委員

・10年で変わるか、15年20年かかるのかという見通しが必要である。そうなれば、市庁舎は半分でよいという議論になるが、当面はそうはいかない。30年後を見通すなら3分の1にできることを覚悟してやってくださいという条件が必要である。

■委員

・どの自治体もまだ決められない状況である。実際に導入して業務が3分の1や半分に減っても、人を半分にしていれば別の問題である。従来カバーできなかった市民サービスや要望のある内容に人を振り向けることもある。現場はなくならないため、農業や製造業と同様に、便利になっても、ブルーカラーの人は必要である。市の職員も企画だけでなく、市民と触れ合う窓口や現場があるため、人数は減らない。どうやって充実させるかという方向に舵を切ることになる。毎日調べて書類を作成して渡すという人がいなくなるだけで、定型作業を行う会計年度任用職員がいなくなるという程度に見ておくのがよいだろう。DXにはAIも含まれると考えなくてはいけない。ガバメントAIは強力に来ると思うが、小郡市がどうするかという話である。

・職員のことは市民目線の議論に含めていないが、意識はしている。市庁舎が早く綺麗にできた方がよく、働く環境も含めて庁舎の機能と規模というものがある。市民が心地よいエリアやスペース、機能であってほしいのが大前提だが、そこで対応してくれる行政の方々が働きやすく、ニコニコしている場所であってほしい。

・絶対に小郡市の公務員になりたいという人が何パーセントいるか、この自治体で働きたいという自治体もあるかもしれないが、今は公務員になればよいという世代でもない。市民目線で少し意識してご意見をいただきたい。

■委員

・労働環境という意味での生活者、働いている方も生活者なので、生活の場としての労働環境はこれまであまり言われてこなかったが、庁舎や学校でも言われ始めてここ15年ほどになる。先生は8時間以上学校にいて、自分の机しかいる場所がなく、こどもたちは遊ぶところがたくさんある。生活者としての行政職員がニコニコして暮らせる空間は重要な機能だと思う。豪華な食堂や休憩所を作ればよいという話ではないが、少なくとも今までなかった更衣室、多分女性はあるけれど男性はないという庁舎が多いし、そうした休憩や通勤機能もかなり重要だと思う。それから決めるのではないが、そうしたことも配慮するのは重要なことである。

■委員

・窓口サービスで、オンラインで住民票や印鑑証明を発行していると思う。土曜、日曜日は本庁が休みであるが、コンピューターは動いているので、費用対効果を見積もって、DXで

の窓口サービスについて、どこまでのサービスをやるべきかについて検討する必要がある。市職員も大変で、誰かが常に管理していなければならない。停電があったら発行できないこともある。窓口サービスをどこまで提供するか、市民のニーズがどこまであるかを分析しながら取り組むべきである。

■委員

・市庁舎の建設目安は、10年後を考えればよいのか、15年後を考えればよいのか、全然決まっていないのか。

■事務局

・答申をいただいて、新庁舎建設に関する基本方針、基本構想を作成する。その時点でおおむねいつ頃という形をお出しできると思う。答申をいただいて約1年程度で、令和9年度中には構想という形で何年を目指すということを出していきたいと思う。

・この庁舎は実質かなりの年数を経過している。地震の話もあったが、福岡県が令和7年度に10年前の平成24年度の評価を改めて変更し、地震のアセスメントを出したところ、警固断層や別の断層で震度が高くなってきている予想がある。それを考えれば、1日も早くやっていたいかなければならない。防災の拠点として、庁舎をきちんとやってほしいというご意見も多くあったので、1日も早くやりたいと思うが、建設費の話もあり、相当な建設費が必要になる。説明責任を果たすためにもしっかりと議論させていただきたい。1日でも早くやりたいが、手順はきちんと踏ませていただきたい。

■委員

・10年先にできたらよいくらいの想像でよいのではないか。基本計画ができて、準備をして、お金を準備して、手続きを踏んで、どうしても3、4年、建物も土壌調査等で1、2年かかる。最低限必要なものが7年くらいあるので、想像して10年以内、この庁舎が10年持つかどうかという話もある。

・今日は機能面を5つの視点で皆様からご意見をいただき、ある一定程度の方向性が出てきたと思う。防災拠点という機能はこうあるべきということは、今日はお示ししませんでした。方向性は皆さんのご意見が集約できたと思う。次回どのような形で議論するかは事務局にお任せしながら、第3回までに今日の議論をまとめていただき、次回という方向でよろしいか。